

冷凍調理済食品、アルコール飲料など68品目の加工食品市場を分析

2015年国内市場見込(2014年比)

ウイスキー 2,654億円(16.3%増)・・・国産品好調、輸入品も前年後半から引き続き順調

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811)は、2015年8月より6回に分けて27カテゴリー410品目の加工食品国内市場について調査を行っている。その第2回目の結果を報告書「**2016年 食品マーケティング便覧 No.2**」にまとめた。

この報告書では冷凍調理済食品24品目、チルド調理済食品6品目、その他調理済食品5品目、アルコール飲料33品目の4カテゴリー68品目の市場を調査・分析した。

なお、第3回目はチルドデザート、フローズンデザート、ドライデザート、米飯類、めん類、その他ステープル、第4回目は調味料、調味食品、第5回目は農産加工品、畜産加工品、水産加工品、乳油製品、第6回目は果実飲料、炭酸飲料、乳性飲料、嗜好飲料、健康飲料、その他飲料、嗜好品の市場を調査・分析する。これらの結果は順次発表していく。

原材料費高騰による商品の値上げでモノが売れにくくなっている加工食品業界において、食品メーカーは時短・簡便、個食などニーズ対応が求められている。冷凍、チルド、その他調理済食品は内食向けの需要を獲得し好調である。また、品目により付加価値型商品の投入が強化されている。一方、アルコール飲料ではウイスキーがTVドラマ『マッサン』効果で大きく伸びている。

<注目の品目市場>

ウイスキー(アルコール飲料)

2014年	2013年比	2015年見込	2014年比
2,282億円	107.0%	2,654億円	116.3%

2014年は米国ビーム社を買収したサントリーホールディングスの「ジムビーム」を中心とした輸入ウイスキーの販促・広告宣伝強化が市場の拡大に貢献した。また、TVドラマ『マッサン』効果により、アサヒビールの「ブラックニッカ」「竹鶴」や他メーカー商品も後半大幅に伸長し、市場は拡大した。

2015年は大麦を原料とするモルト原酒が不足するほど国産ウイスキーが好調で、輸入ウイスキーも引き続き販促により順調であり、通年で大幅な伸びが見込まれる。

地ビール、国産クラフトビール(アルコール飲料)

品目名	2014年	2013年比	2015年見込	2014年比
地ビール	374億円	103.3%	390億円	104.3%
国産クラフトビール	17億円		47億円	2.8倍

ここではクラフトビールのうち、ビール酒造組合に加盟していない小規模醸造所で製造された商品を地ビールとし、ビール酒造組合会員企業など(ビール大手5社と関連会社)が小規模醸造をコンセプトに製造した商品を国産クラフトビールとした。

2014年は国産新ジャンルビール風味アルコール飲料や国産ビールでは消費税増税前の駆け込み需要とその反動、買い控えなどがあったが、地ビールは影響が軽微で市場拡大した。2015年は地ビールの認知度もさらに向上し、店舗での陳列や業務用でのメニュー採用の増加などにより市場は前年増が見込まれる。

国産クラフトビールは2000年代後半より原料や製法にこだわったプレミアムビールがブームとなったことから“こだわり”を求める気運が高まり、大手メーカーが相次いで商品を投入している。2015年はキリンビールの子会社が「スプリングパレーブルワリー」、アサヒビールが「クラフトマンシップ」、サッポロビールの子会社が「クラフトラベル」をそれぞれ発売し、インターネット通販やCVS、系列ビアホールなど販路を限定して展開している。市場はまだ小規模であるが、前年比2.8倍の47億円が見込まれる。

冷凍ギョーザ、冷凍水ギョーザ（冷凍調理済食品）

品目名	2014年	2013年比	2015年見込	2014年比
冷凍ギョーザ	340億円	103.7%	363億円	106.8%
冷凍水ギョーザ	35億円	112.9%	42億円	120.0%

冷凍ギョーザの2014年は消費税増税の影響が軽微で市販用を中心に好調であった。2015年は引き続き味の素冷凍食品、イトアンドなどが積極的な販促活動により好調であり、市場は拡大が見込まれる。

冷凍水ギョーザの2014年は上位メーカーが、新商品の投入に加え、鍋メニューなどの提案を行ったことから、市場は前年比二桁増となった。2015年も引き続き大幅な拡大が見込まれる。

卵焼き類（その他調理済食品）

2014年	2013年比	2015年見込	2014年比
580億円	101.4%	583億円	100.5%

2014年は消費税増税や鶏卵価格の高騰から値上げが実施されたが、調理の手間が省けるメリットから市場への影響は軽微であった。主力の業務用が伸び、市販用も弁当需要の獲得が進み小幅増となった。

2015年も鶏卵価格の高騰が続き、一部のメーカーでは値上げが行われている。業務用では中食向けがCVSテイクアウトフードや量販店デリカなど、外食向けが回転ずしなどの需要が底堅いほか、市販用も安定した需要を獲得し、市場は微増が見込まれる。なお、業務用では回転ずしですしネタ以外のサイドメニューに採用されるなど、用途の広がりをみせている。

< 調査結果の概要 >

カテゴリー	2014年	2013年比	2015年見込	2014年比
冷凍調理済食品（24品目）	5,035億円	101.2%	5,117億円	101.6%
チルド調理済食品（6品目）	1,392億円	100.2%	1,369億円	98.3%
その他調理済食品（5品目）	1,534億円	103.0%	1,592億円	103.8%
アルコール飲料（33品目）	3兆7,524億円	100.1%	3兆8,248億円	101.9%

2014年市場動向

冷凍調理済食品

冷凍お好み焼き、冷凍たこ焼き、冷凍コロッケなどは、円安と原材料費高騰により値上げが実施されたが、中食需要の獲得が進み伸びた。冷凍ギョーザは上位メーカーの注力度が依然として強く、引き続き伸びている。冷凍水ギョーザはメニュー提案を強化したことで好調である。冷凍シューマイや冷凍コロッケは付加価値商品の提案が活発化している。

チルド調理済食品

全体として熾烈な価格競争が続いているが、チルドハンバーグとチルドミートボールは内食や弁当需要の高まりを受け好調である。販売価格の下落は原材料費高騰と併せて参入企業の収益を圧迫しており、付加価値型商品の投入が注目を集めている。

その他調理済食品

うなぎの蒲焼はシラスウナギの不良で夏場に単価が上がったものの、供給体制が整っていることから市場は拡大している。卵焼き類は値上げが行われているが、業務用の中食、外食向けのほか市販用も堅調である。

アルコール飲料

発売以来プラス成長が続いていた国産新ジャンルビール風味アルコール飲料が2014年にマイナス成長に転じた。2015年はプレミアムビールもマイナス成長が見込まれる。一方、これらの需要シフトを受け、チューハイを中心とした低アルコール飲料と糖質ゼロ、プリン体ゼロを訴求した国産発泡酒が大きく伸びている。ウイスキーはTVドラマ『マッサン』の影響で国産品を中心に需要が急増しており、2015年は前年比二桁増が見込まれる。

<調査対象>

冷凍調理済食品		
1. 冷凍ハンバーグ	9. 冷凍お好み焼き	17. 冷凍えびフライ
2. 冷凍肉だんご・ミートボール	10. 冷凍たこ焼き	18. 冷凍いかフライ
3. 冷凍グラタン類	11. その他冷凍スナック	19. 冷凍かきフライ
4. 冷凍ギョーザ	12. 冷凍コロッケ	20. 冷凍白身魚・その他水産フライ
5. 冷凍水ギョーザ	13. 冷凍カツ	21. 冷凍あじフライ
6. 冷凍シューマイ	14. 畜肉系カツ	22. 冷凍からあげ
7. 冷凍春巻	15. 水産系カツ	23. 自然解凍冷凍食品
8. 冷凍天ぷら	16. 冷凍水産フライ	24. 冷凍和惣菜
チルド調理済食品		
1. チルドハンバーグ	3. チルドグラタン類	5. チルドシューマイ
2. チルドミートボール	4. チルドギョーザ	6. チルド茶わんむし
その他調理済食品		
1. ワンタン	3. 卵豆腐類	5. アメリカンドッグ
2. 卵焼き類	4. うなぎの蒲焼	
アルコール飲料		
1. 清酒	12. ノンアルコールドリンク	23. 地ビール
2. 生酒	13. ウイスキー	24. ノンアルコールビール
3. 合成酒	14. ブランデー	25. スピリッツ
4. 焼酎甲類	15. ビール類	26. 国産ワイン
5. 焼酎乙類	16. 国産ビール	27. 輸入ワイン
6. 甲乙混和焼酎	17. 国産クラフトビール	28. 酸化防止剤無添加ワイン
7. 韓国焼酎	18. プレミアムビール	29. スパークリングワイン
8. 低アルコール飲料	19. 国産発泡酒	30. 梅酒
9. チューハイ	20. 国産新ジャンルビール風味アルコール飲料	31. リキュール類
10. カクテルドリンク	21. 輸入ビール類	32. マッコリ
11. 水割り洋酒・ハイボール	22. 機能型ビール類	33. RTS

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2015年8月～10月

以上

資料タイトル：「**2016年 食品マーケティング便覧 No.2**」

体 裁：A4判 306頁

価 格：書籍版 100,000円+税

PDF/データ版 110,000円+税

書籍版・PDF/データ版セット 130,000円+税

書籍版・ネットワークパッケージ版セット 200,000円+税

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル

TEL：03-3664-5811(代) FAX：03-3661-0165

<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

[e-mail：info@fuji-keizai.co.jp](mailto:info@fuji-keizai.co.jp)

調 査・編 集：東京マーケティング本部 第一部

TEL：03-3664-5821

FAX：03-3661-9514

この情報はホームページでもご覧いただけます。 [URL：http://www.group.fuji-keizai.co.jp/](http://www.group.fuji-keizai.co.jp/)